

JFW-JC News

12.6 [thu] バイヤー目線で厳選された有力企業が出展

テキスタイルコンテスト

新しい触感の作品が顕著ーグランプリに柏原陽子さん



世界が注目する日本のテキスタイル。その一翼を担う次世代のデザインが競う「JFW-JC2008テキスタイルコンテスト」の審査結果は以下の通りです。

今回の応募総数(292名/423点)の中から、グランプリ1点、優秀賞2点、新人賞1点、部門賞8点が選ばれました。

テキスタイルコンテスト講評

審査委員長 皆川魔鬼子氏

今回は、服になることを前提として発想された素材や、エコロジカルな視点からの作品が多かったのが特徴と言えます。また、昨年から新人賞も加わり、これまでに比べて学生の応募が多くありました。新しいタッチの作品も多かったが、今回選出された素材の多くは触感の良いもので、面白味のある作品であってもごわごわしているものや、風合いの悪いものは選出されませんでした。着用するものには着心地を求める、というのが審査員の共通した認識でした。

日本は技術レベルが高いゆえ、基本的な質感や感性というものが忘れがちになっているのではないのでしょうか。直接視覚や、感覚に訴える技法にはプリントがありますが、絵柄を描く人が少なくなっています。その中で時代を先取りする絵柄のコミュニケーション提案をしてくれる若い力が増えることで、売場も楽しくなり、またプリント業界も活性化していくのではないのでしょうか。



会場内のバイヤーズ・セレクト・コーナー ビジネスが活性化

バイヤーズ・セレクト・コーナーは、アパレルに出展してほしい企業をアンケートしたデータを基に、選出された企業で構成するエリアです。今回が初の試みで、バイヤーの目線でJFW-JCの展示会としての魅力を高めることを目指しています。すべてテキスタイル関係の企業で、出展件数は40軒、104小間。ファイバーメーカーから産地の川中企業、テキスタイルコンバーターまで幅広い業種で、そうした企業が展示しています。コンバーターも出展しているために、ビジネスの芽を見つけては出展企業のブースを回って、新しいビジネスに組み立てていく動きが初日の午前中から見られました。こうした組み立ては、個別の出展メーカーだけでは難しい。「商」の専門家が入ることで、会場内のビジネスが活性化していることがうかがえます。こうした商談はビジネスのきっかけをつかむことがカギを握るため、通路に設けられたテーブルで十分に話ができるということです。一方、ブースによっては、クローズド方式で商談コーナーを設けているケースも見られます。東レは今回、100平方メートルとブース面積を広げたのに併せ、商談コーナーを拡充しました。「JC会場では突っ込んだ商売なんて、できない」という意見も少なくありませんが、同社がブース内に設けたテーブルが満席であることを見ると、これは既成概念に囚われた考えであるといえそうです。

グランプリ

柏原陽子(かしはら・ようこ)さん(多摩美術大学)
作品名: worm graffiti 素材:コットン100%



葉っぱの虫食いを観察してみると、食べている虫が落書きをしているように見えたことから、グラフィカルなプリントでの表現に結び付いた。
新しい柄に対するニーズは多いが、結果的に一般的な柄に終わってしまうことが多く、楽しく描くことが欠落しがちな昨今、最も説得力を持つプリントに焦点をあて、プリントの持つパワーを再認識させ、同時に群を抜いたセンスの良さで、新しい時代に向けての受賞となった。

優秀賞

森益一(もり・ますくに)さん
(森技術士事務所)
作品名: JAPAN KANSEI(感性)
素材:ウール100%



羊毛の優れた特性をイメージチェンジ。羊毛でありながら全く麻のタッチに仕上げた。新しい特許技術を開発し、環境対応仕上げ剤で毛羽を取り除かせたという。染色も天然ミロバラの草木染めで日本らしい感性表現、ということではあるが、少し和服の色になってしまったのは惜しい。

新人賞

谷敷謙(やしき・けん)さん
(杉野服飾大学)

作品名: ファニーファニーゴースト 素材:コットン100%、発泡スチロール



学生の作品にも視点をあて、今後の試みへの期待を込めて新人賞に選出。キャラクターデザインの発想と、学生にしかできない時間をかけた作業で、Tシャツとタオルを用いたリサイクルの提案。今回の応募作品の中でも特に目立ち、アイキャッチャーとしての商品も必要という意味も含め、若々しさからの選出となった。

優秀賞

浅井徹也(あさい・てつや)さん
(高橋ニット株式会社)
作品名: 輪になって踊ろう 素材:ウール100%



運動会で子供が手をつないでいる楽しい情景から、編地が輪状に横につながっていくという技法を発想。横編機を用い、裏目の中針を表目にもってきて、横に移動させた裏目に戻し、針目があいた部分はインターロックで閉じるという複雑な技法で輪になって踊るイメージを表現している。その不思議な存在感から、審査員の注目を集め高評価を得た。

テキスタイル部門賞

- ・テクノロジー部門: 江原 典子さん(東レ株式会社)
- ・ニューフィニッシング部門: 佐藤 功さん(墨田革漉工業株式会社)
- ・ニュータッチ部門: 北島 信義さん(群馬県繊維工業試験場)
- ・アーティストックワーク部門: 行徳 茜さん(多摩美術大学)
- ・トレンド部門: 上田 善則さん(株式会社丸萬商店)
- ・エコロジー部門: 足立 聖さん(有限会社カナーレ)
- ・プリント部門: 大室 孝さん(テキスタイルデザイナー)
- ・ニュートラディション部門: 堀 文栄さん(小松精練株式会社)

PIGGY'S SPECIAL 12.05.wed.



ピググスキンのもつ さまざまな表情

東京産ピググスキンを用いたPIGGY'S SPECIALファッション・ショーはJCでも恒例。

12月5日に行われたショーは、デザイナー廣川玉枝、福井武からなるブランド「SOMARTA」と、堀畑裕之・関口真希子の「Matohu」で構成された。

SOMARTAは、ひも状にカットしたピググスキンを、粗めに編み上げたレザーニットや、カットワークによって、透明感のある風を感じさせる革で見た。Matohuはベルベットのようになややかなスエード、ステッチワークのように見える繊細なプリント、メタリックな箔加工皮革を用いたニットとのコンビネーションアイテムなど、上質なカジュアルを提案。

12月6日は、専門学校10校から選出された学生によるピググ・スペシャルファッションショーが行われる。

Schedule

本日の主なスケジュール

Students Fashion Show
13:30~ PIGGY'S SPECIAL
15:00~ PIGGY'S SPECIAL

Forum

11:00~ 近藤健一氏「企業間コラボレーション『夢工房』」
14:00~ 時田麗子氏「世界から見た日本のテキスタイル」

明日の主なスケジュール

Forum

11:00~ 池西美知子氏「TOKYO FIBER'07 SENSWARE バリ展報告会」
14:00~ 藤岡篤子氏「産学協力によるプリント技術への思考と試作」

キーパーソン・インタビュー

世界消費を支える新興工業国の富裕層

世界の消費構造が変化

——世界的にサブプライム問題の影響が深刻ですね。

ええ。米国はいま消費が冷え込み、ボリュームゾーンは相当に厳しい。しかし、プレステージゾーンは状況が違います。ニーマン・マーカスやサックス・フィフス・アベニューなど高級百貨店は10月、前年実績をクリアしました。外国人観光客の購買が旺盛なためです。

——ユーロ高で、欧州からの観光客が増えている。

いいえ、とくにBRICsのブラジル、ロシア、インド、中国など新興工業国が多い。マレーシアやタイ、インドなどアジアの購買力も向上しています。

これはニューヨークだけでなく、パリやロンドン、さらに東京など世界中の大都市で見られるようになりました。当社でも、青山の直営路店は4割が外人観光客です。以前はあまり、ありませんでした。世界の消費構造が大きく変わり、新興工業国の増え続ける富裕層が世界の消費を支えていくと予想されます。

——為替の影響で、日本では韓国からの観光客が増えたそうですが。

韓国の観光客の中には、ウォン高のおかげで「5%還付されるだけだし、免税手続きは面倒だから、やらない」という人も増えつつあります。また、銀座のある有名宝飾品店で、ロシアの観光

客がキャッシュで買い物をした。その理由も通貨高のために、欧州の本店よりも東京の方が安いからです。

従来はファッションに不案内だったり、中にはブローカーへの転売目的で購入する人もいました。しかし、いまは自分用に購入するファッション感度の高い人が増えています。こうした変化で、クオリティが重要になりました。さらに、今後は外国語での対応やアフターケア、ポイントカードなどサービス面の充実も重要です。

可能性高まる日本生産品の輸出

——ユーロ高は様々な影響を引き起こしていますね。

ユーロ高で、イタリアでの生産が難しくなっています。イタリアに並ぶ縫製技術、素材の競争力があるのは日本のみ。したがって、日本製の生地を使って日本で縫製したメイド・イン・ジャパンの商品を輸出する可能性があります。

——欧米向け輸出が期待されます。

JFWの委員をやって2年になりますが、ずっと「21世紀のポテンシャルはアジアにある」と言い続けているんです。アジアへいかにプレゼンするかが、カギを握ります。欧米が重要だという主張がありますが、欧米で実際に商品を購入しているのは、アジアからの観光客が多いという事実を見逃した意見です。

(株)イッセイ・ミヤケ

代表取締役社長

太田 伸之 氏

東京発 日本ファッション・ウィーク実行委員



高い日本文化への関心

——日本ブランドは海外で知名度が低い。

確かに、その通りですが、それでも売れているのは、「今っぽさ」「日本風のかわいらしさ」など商品力があるためです。

——アニメや漫画など、日本文化への関心は高まってきていますが。

日本ブランドは人気がありますよ。台湾へ行くと、女性誌の売り場が日本の3倍もある。その理由は、中国語版に加え、欧米版や日本語版も販売しているためです。漫画コーナーも同じですね。日本の情報が非常に早く入っている。エンドユーザーは、日本の生活文化に関心を持っている。ブリーズブリーズの店は日本で50店舗ですが、台湾には20店舗もあります。ツモリチサトはアジアでの人気が高く、東京の百貨店に比べ、アジアの店は2倍も売り上げがあります。

今後のコアターゲットは新興国の富裕層で、ファッションに関心の高い人たち。既成概念のない人たちです。プロモーションしただけで販売増の可能性が高まる。ここに、きちんとフォーカスすることが大切です。

企業紹介(ファイバー・後加工)



王子ファイバー(株) No.B区-19

天然フィラメントの領域を拡大

ペーパーヤーン「QJO+」は、既存の紡績糸やフィラメント糸という主要繊維の製造方法とは異なった「第3の繊維」の製造法によって、環境型繊維の大量生産を可能にした。天然の生分解繊維です。天然フィラメント加工糸としてテキスタイルの表現領域を広げ、新しい質感と風合いを提案する。まさに地球環境にやさしい繊維です。同製品は、廃棄した場合、土中の微生物により炭酸ガスと水に分解する性質をもっています。



東レ(株) No.E区-02

テーマは4つ、吸汗速乾がさらに向上

今回のテーマは、エコロジー、センシティブ、ナノテクノロジー、コンフォートの4つ。再生ポリエステルや再生ナイロン、バンブー長繊維など環境に配慮したものを始め、UTS(超極細繊維)をさらに細くしたものを加えています。

さらにナノテクノロジーを使ったコーティング加工を充実させ、吸汗速乾性が向上。花粉やペット、ダニなどのアレルギーを抑える素材も新たに加わりました。



帝人ファイバー(株) No.E区-35

古着を循環型リサイクルで再生

使用済みPETボトルからマテリアルリサイクルで再生された「エコベット」と、不用品ポリエステル製品から新原料リサイクル技術によって再生された「エコベット・プラス」を紹介。エコベット・プラスはポリエステル製の古着を回収し、これをカット、脱色、分子レベルに分解し、ポリエステル原料に再生するものです。原油原料との比較では、CO2が77%、エネルギー消費で84%の削減が可能となりました。



レンテング・ファイバー社 No.5区-40

コンテスト優秀賞は海外見本市に

JFW-JC展の初日に「日本素材コンテスト」を実施し、その優秀賞にはジャパン・プレミアム素材としてブルミエール・ヴィジョンやテックスワールドで紹介する特典があります。今年から始まったもので、テーマはスポーツ、センシティブ・スキン、マイクロ、コットンの魅力向上、ホームテキスタイル。テキスタイルメーカーから130点の応募があり、このうち各カテゴリーから5点ずつ25点がコンテストの対象となりました。



小松精練(株) No.E区-03

「コンパクト、軽量、細番手」をさらに進化

08年のテーマは「Vital」(元気)で、変動する時代環境や自然環境に対応して生きるためのクリエイションを提案しています。スポーツ、パーティ、ウィークエンド、ビジネスの各シーンのONとOFFを想定した素材を開発。そこから、これまでになかったスキン(皮)の感覚を表現したり、漆調の色感とソフトした触感を打ち出したりするなど、コンパクトで軽量、細番手のシリーズに新風を送り込んでいます。



狭山ホームワーキング(株) No.C区-19

新たな質感を追求

プリント及び付加価値加工の専門メーカー。基本技術51種と3つの固有コア技術を駆使し、新鮮さと高感度な表情を多彩に提案しています。基本テーマにしている「完成度と感動」をベースに、今回展では「新たな質感」に挑戦します。主としてニット素材を使い、様々な表情を追求しました。08AW商談では、新しいメタリックな表情、ピーチフェイス、マウンテンムース、アースフェイス、アイズフェイスなどの企画が好評です。



輸出対応可能



ラグジュアリーブランド実績

欧米のメゾンで評価定着

日本製テキスタイルへの評価は、いまや欧米で定着。ラグジュアリーブランドを中心に伸びています。海外展に出展している企業だけでなく、JC出展を契機に輸出が始まった企業もあります。

JC会場で仏バイヤーが着目

日本ホームスパン(株) No.E区-30

手紡ぎ・手織りの風合いを活かした素材で個性的な織物を生産。国内外のデザイナーブランドから高い支持を得ています。輸出のきっかけは、フランスの超有名メゾンのバイヤーがJC会場を訪れた際に同社のコレクションに目を留めたことです。多色のシルク・ツイードが好評で、その後も欧州や韓国などで輸出先を増やしています。



アルパカ・ウール混のファーなど

妙中パイル織物(株) No.E区-25

パイル織物の総合一貫メーカー。08秋冬商談もすでに、欧米の有力ブランドから着分依頼を受けています。アルパカ・ウール混のファーやコットン・ベルベットのコーティング加工、コットン・ナイロン混のダブルフェースなどが好評です。



jc (ジェシー)のちよつとイッ服 2007.12.06.発

「話題のお土産も買えるイトシア」

ビッグサイトまで出てきたついでに市場調査も、という方には有楽町がお薦めです。ゆりかもめ利用なら、新橋から東京駅方面に向かう山の手線で一駅。または豊洲にでて有楽町線に乗り換えれば約20分で有楽町に到着です。マルイも入って話題の有楽

町イトシアは、駅中央口から徒歩1分という好立地。イトシアフードアベニューには、国内2号店となる人気のクリスピー・クリーム・ドーナツも出店しています。購入できるのは新宿高島屋店とここだけなので、東京土産にいかがでしょう。

